

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		レコルダCラボ		公表日		2025年4月8日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		提供時間においては、利用児童の把握をしっかりと行っている。職員の配置数は、府の基準に適合するよう配置をしている。	不定期利用の児童に対しては、療育の途切れがないように配慮していきたい。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		集中が難しい児童に対しては、周囲の音が療育の妨げにならないよう個室スペースを確保している。	玄関までの階段が急なので、安全面への配慮を行い、保護者様の不安がないように、利用児童への声掛けを周知徹底する。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		清掃の際、共有する机やイスなどの消毒も行い、毎日清潔な状態を保つようにしている。また児童の入れ替わりがある場合は、共有分の消毒を徹底している。	感染予防の視点に立ち、換気や消毒を徹底していく。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		・聞くスキル課題の時に必要に応じて屏つきの部屋を使い、集中できる環境を整えている。	複数の個別療育スペースを用いて、引き続き落ち着いた環境で個別療育に取り組んでいく。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。		○		PDCAサイクルについては、新人職員に対しても研修を行っている。支援課題を達成できるようにPDCAサイクルに留意した支援を行っている。	引き続き、新人指導を行い、社内でPDCAサイクルの進め方について周知徹底に努めていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○		毎年アンケートを行い、保護者様からいただいた意見を職員間で共有し、改善につなげるよう努めている。また、交流会などの開催により、保護者様の意見をうかがう機会を設けている。	保護者様の貴重なご意見を、療育活動や業務運営に反映していく。特に安全面での配慮を行っていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○		週に一回必ず職員会議を行い、日ごろの支援や、業務面での問題を吸い上げることのできるような機会を設けている。	引き続き、職員会議を通じ、課題に関する業務改善を行っていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			○	今後検討していく。	今後検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		○		外部研修の情報を社内でも共有したり、社内で教授法に関する研修を行っている。	教材に関する研修を行い、どの職員が療育を行っても同じ質を保てるようにする。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○		R6.4～作成し、ホームページに公表している。府への届け出も行っている。	公表済み。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。		○		職員間でアセスメント会議を行い、児童への聞き取り、保護者様とのモニタリング面談を経て、細かくニーズを取り入れることができるようにしている。	今後も、ニーズの聞き取りを大切に、ニーズを反映した計画作成に留意していく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		○		利用児童ごとに作成されている個別支援計画を、全職員が必ず目を通し、利用児童のニーズに対して、どのように支援していきたいか、意見を述べる機会を必ず設けている。	全職員が共通認識の下で療育を進めることができるように引き続き留意していく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		○		職員全員で計画の確認を行っているため、療育内容を共有することができる。	全職員が共通認識の下で療育を進めることができるように引き続き留意していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		すべての利用児童に対して、標準化されたツール（レイの図、サリーとアン、MIM、ワーキングメモリ課題など）を用いてアセスメントを行っている。また、日々の行動観察についても綿密にアセスメントを行っている。	引き続き同様の手法でアセスメントを行っていく。またよりよい方法があればその手法を取り入れていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		○		ガイドラインに沿って、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」の項目について個別支援計画に内容を盛り込み、それぞれにおいて具体的な支援内容が設定されている。また、その内容については保護者様に説明を行っている。	何か不明な点があれば、丁寧な説明を心掛け、支援するにあたって具体的な内容を提供できるよう心掛けていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○		集団スキルの取り組み前には、主導する指導員が中心となって、どのような内容を行うか、情報共有したり、利用児童によって取り組むプログラム内容を修正したりして、臨機応変に担当間で情報共有している。	常勤、非常勤職員を問わず、きめこまやかな情報共有を心掛けていく。

適切な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		読むスキルなどの集団スキルは、2年1クールと設定しており、ある程度固定化しながらも、その日の参加児童に応じ、長期で利用しているメンバーには飽きが来ないように課題の変更を行っている。	固定化が必要なプログラムについては、その趣旨説明を丁寧に行い、ある程度柔軟に変更できるプログラムについては改善していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		集団療育を行っている利用児童に対して、集団療育終了後に個別対応が必要な場合は取り組むようにしている。	引き続き、利用児童の状況に応じて、適宜支援方法を組み合わせるべくしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		集団療育の前には、プログラムの共有と、利用児によつてどのような支援が必要かを確認してから行っている。	引き続き、チームで共有して連携し、最適な支援活動を行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		特別に対応が必要な事が起きた際には、必ず職員間で共有したり相談している。	利用児に課題が適していなかったり、何か気になることがあったりする時は、職員間でもっと密に情報を共有していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		その日の取り組みの様子は、課題の項目ごとに分けてノートに記入しているため、どの職員が見ても、進捗や取り組み内容がわかるように工夫している。	引き続き現在のやり方で、どの職員が見てもわかりやすい記録を心掛けていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に一度、保護者様や学校などと連携して情報共有を行い、利用児童の現状に必要な課題を設定している。	引き続き、支援計画の作成日を管理し、半年に一度、必要であればもっと短期間のうちに見直しを行う。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		複数の職員が関わっている場合は、事前に職員間で情報を共有し、情報の漏れがないように努めている。	情報の漏れがないよう今後も努める。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		個別支援計画策定の際、必ず保護者様に希望のあるなしを伺い、希望があれば積極的に連携する体制を整えている。	引き続き、保護者様のニーズにそって連携できる体制をとっていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		共有しない、できないと判断される場合もあるので、情報共有できないが、機会があれば積極的に情報共有させていきたい。	現在実施はないが、機会があれば参加していきたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者様からご要望があった場合、情報提供書の作成等を行っている。	保護者様からご要望があった場合、情報提供書の作成等を行っており、引き続きニーズに沿って、積極的な情報共有を行っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		現在、実績はまだないが、機会があればそのような機会を設けていきたい。また、センター主催の研修会には参加している。	実績がないため、未実施だが、今後そういう機会があれば積極的に参加していきたい。また、センター主催の研修会や連絡会等があれば積極的に参加していきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		現在実施はないが、機会があれば参加していきたい。	実績がないため、未実施だが、今後そういう機会があれば積極的に参加していきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		何かあればLINE等を通じて、相談を受ける体制を整えている。また、連絡帳にご記入いただく形で情報のやりとりを行っている。	月の療育報告を基本として内容の共有をさせていただいているが、その他に気になることがあれば、ご相談に応じる体制をとっていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		交流会を開催し、複数のテーマから保護者様のニーズに応じた提供を行っている。	ご家族が参加できる会の開催を積極的に行っていきたい。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時にご説明を行うとともに、運営規程は玄関で閲覧可能な状態にし、支援プログラムについてはホームページに掲載している。	ご不明な点があれば、問い合わせに応じる体制をとっていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		ご利用児童や保護者様のニーズを必ず個別支援計画に反映できるようにしている。	細かい内容等、いつでも質問事項に答えられるようにLINE等を通じて引き続きご案内していく。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		内容についてご説明し、不足がないかを確認した上で保護者様に同意のサインをいただいている。	内容についてご意見があれば、丁寧な説明と計画の修正を実行していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		モニタリング面談時だけでなく、必要に応じて家族支援サービスをご利用いただいている。契約時には必ず相談に応じることができるとお伝えしている。	ご要望があれば応じる体制を整えている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者交流会を開催し、皆様が忌憚ない意見を述べ合うことができるような雰囲気の下、日ごろの悩みなどを話し合う機会を設けている。	きょうだい同士の交流を含め、今後機会を設けることができるよう検討していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応の体制を整え、契約書にも記載している。また、玄関に体制に関する掲示も行っている。	苦情については、真摯な対応を心掛け、ご理解を得られるように対応していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		保護者様と事業所との間で、1対1のやりとりをできるようなLINEツールを活用している。	引き続きLINE等を通じて情報発信を行う。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		新人研修の際も必ず情報漏洩に関する研修を行い、社外に個人情報がもれないように留意している。	新人研修や、既存の職員に対するリマインド研修を行い、情報漏洩に関する社内の意識を高めていく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚支援ツールを用いて、言葉での指示が難しい場合は、円滑にやりとりができるように工夫している。	この伝達方法で十分かどうか、常に意識し、よりスムーズに伝達できるような方法をチームで検討していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	○	現在まだ実施はないが、協議会等に参加して地域の方々の連携を進めていきたい。	現在まだ実施はないが、協議会等に参加して地域の方々の連携を進めていきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルの整備を行っており、職員へは研修を通じて周知徹底を行っている。	防災訓練等の取り組みを、広く保護者様へ知っていただくための取り組みを行ってきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		自然災害および、感染症の場合に応じてBCPをそれぞれ策定し、職員への研修・訓練を行っている。	マニュアルの変更が必要な場合は、即行い、職員へ周知徹底していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		児童に応じてアセスメントやモニタリングを行う際、体調についての聞き取りを行っている。	対応が必要な児童を常に意識し、職員間で漏れないように対応していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	○	食品の提供は行っていない。	食品の提供は行っていない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を策定し、所内で掲示している。また定期的に職員に対して、研修を行っている。	安全計画に不備がないか、社内の意見をヒアリングし、最善の計画を保つ。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		玄関に掲示している。	マニュアルを変更した際も、随時最新版を掲示できるようにしておく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例について誰でも閲覧可能な状態にしてあり、毎日療育終了後にヒヤリハットについての情報を共有している。一週間に一度、職員会議の際に、その週に起きたヒヤリハットについて情報共有している。	定期的なヒヤリハットの見直しを行い、社内で起こりうる事故について常に意識を向けられるようチームで取り組む。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会主導のもと、研修を行い、知識を共有している。	職員のメンタル面や、グレーゾーンの研修等を通じて、虐待が起こりうる状況をできる限り回避していく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		個別支援計画に、身体拘束は行わない旨、記載している。	今後も身体拘束は行わない。	